

2018年・年頭ご挨拶

2018年成年

認定NPO法人環境パートナーシップいわて
岩手県地球温暖化防止活動センター（指定団体）
環境学習交流センター（管理運営受託団体）
代表理事・センター長 野澤 日出夫

《いわてならでの幸福》

“こちよく豊かに生き延びるために・・・”

明けましておめでとうございます。

2018年成年の年頭に当たり、一言所感を述べさせていただきます。

環境パートナーシップいわてが創設されたのは、2002年9月でありましたから、本年で16年目を迎えます。2004年NPO法人認可、2005年岩手県地球温暖化防止活動推進センターの指定を受け、2006年環境学習交流センター立上げと運営を受託、2015年認定NPO法人として認定され、先人のご努力によって今日に至っています。

この間、県内外・国外にも多くのパートナーが生まれ、県民にとって住み良いいわての為に、地球温暖化防止活動推進員・環境アドバイザーと共に岩手県総合計画の重要な位置付けにある「環境基本計画」「地球温暖化対策実行計画」のもとに県内全域での環境活動を続けています。特に地球温暖化に対する意識や環境改善への取組みは、急激に変貌してきている事は皆さまご存知の通りです。

その様な中で広く対応を考えながらの活動となりました。

昨年一年間ご尽力頂きました会員各位、ご指導賜りました県当局始め、協働頂きました県内外の関係諸機関・関係者の方々には、心から感謝申し上げます。

【地球温暖化への意識の高まり】

近年国際的に地球温暖化への施策は、国際連合加盟各国に於いて、その危機感の中で、短期間に高い目標を達成しようと言う動きが、特に環境先進国と言われる北欧、スイス、EC諸国で始まって居り、米国トランプ政権下においても、カリフォルニア州政府の環境施策は着々と「化石エネルギーゼロ」に向けて進んでいます。

戦後疲弊していた日本は、1950年の朝鮮動乱の特需を受けて1954年以降1974年頃まで化石エネルギーをベースに「高度経済成長」の時代となり「東洋の奇跡」とまで言われる復興を見せました。

しかしその反面、大気汚染・水質汚染・自然破壊・騒音・振動など全国的に深刻な被害が発生、今なお後遺症が残る事態となっています。

今日「経済優先」の施策が進められていますが、この轍を踏まない様に「経済」は、国民の豊かさの為にある事を忘れず「環境」との両輪で進めるべきものと思っております。

【これからの環境目標】

その為には、2015年9月に国連で採択された「SDGs」（持続可能な開発の為の17項目の目標と169項目のターゲット）・COP21パリ協定の目標（今世紀後半でCO₂ゼロ・・・化石燃料ゼロと同意）は、先送り出来ない案件であり、地球上の生物が急激に種数が減少する中で、生物の多様性を維持するためにも、CO₂削減は必須、その為に行動を起こさなければならない事は、「生物多様性の維持・保全・再生」「持続可能なエネルギーへの変換」と、「ゼロエネルギー住宅による省エネルギー」の三つに集約されると思います。

【環境王国いわてが目指すもの・・・新たな革命】

多様なバイオマスや、自然豊かな恵み・環境を持つ岩手こそ、確実に人口が減少する中で、魅力ある生物多様ないわての自然と共に、持続可能な再生エネルギー100%以上・有機的な食料生産100%以上を、ゆとりをもって達成でき、将来生き残る事は充分可能であり「環境王国いわて」は、正に手に届く範囲にあります。

化石燃料依存の従来産業の仕組みも、革命的に変換せざるを得ない時代となり、短時間で最終目標に向けた施策を、バックキャストで段階的に進め、化石エネルギーゼロ産業を達成する必要があります。2040年にはガソリンスタンドは消えると言われていて、既に先進的な産業では変革が始まって居り、新たな産業革命が起こりつつあります。

達増拓也知事は、昨年の年頭訓示で「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という宮沢賢治の言葉が広く共有されている岩手ならではの幸福というものをともに考えていきましょう。と述べて居られます。

県民の経済のみによる豊かさから、心の豊かさを目指すもので、正に我々NPOが常に主唱してきた「心地よく豊かに生き残る社会」をゴールとするものであり、県民全てが持続可能で心地よい豊かなコミュニティーを目指すことであります。

米国トランプ政権下で敢然として独自環境政策を進める、カリフォルニア州政府の様に、経済やしがらみに左右される政権の施策に寄らず、岩手独自の持続可能な豊かさを享受できる「いわて県民全ての幸福」を将来目標に置いて、強い決意で掲げる環境方針と施策を期待しています。

【連携と広域展開】

本年も県内4地域の県広域振興局や自治体・NPO・諸活動団体とのパートナーシップを強化し、理事スタッフ一同「認定NPO」としての自覚を持って、全ての活動において「安全」を第一とした広域な活動、特に被災された沿岸地域住民の心と環境の支援にも意を尽くしつつ、活動展開を図る所存であります。

本年も一層のご支援・ご鞭撻・ご協力と皆様のご健勝・ご発展をご祈念申し上げ、人との関わりの最も長い動物である犬、その戌年年頭のご挨拶とさせていただきます。